



## 石川県における縄文時代の装い

西田 昌弘（財団法人石川県埋蔵文化財センター）

### 1. はじめに

石川県では、1993年より「石川県考古資料調査・集成事業」の一環として、縄文時代装身具の集成を実施しており、2000年度までの出土品についてはその成果として『装身具Ⅰ』および『補遺編』にまとめられている。そのため、今回はそれら以降に、新たに確認された資料を追加集成した上で、県内における装身具の変遷と特徴についてみていくこととしたい。

### 2. 時期別にみた装身具の様相

対象となったのは計65遺跡から出土した総点数458点の出土品である。以上を報告に基づき時期別に分類した上で、各時期の器種組成比較等を行った（第1図、第2表）。

**早・前期：**装身具を組成する遺跡は、能登17遺跡に対し加賀7遺跡と、能登での出土傾向がつかい。特に石製品では玦状耳飾の出土点数が突出しており、石製装身具の60.3%を占める。使用石材には粘板岩や流紋岩、ロウ石などがみられる他、出土点数の多い三引遺跡では新潟県糸魚川周辺を産出地とする不純石灰岩が確認されており、早期末～前期初頭という早い段階から、これら地域との交流・交易があったことを窺わせる（第1表）。

**中 期：**遺跡数は能登10遺跡に対し、加賀11遺跡とほぼ均等化する。草・前期において石製装身具の中心にあった玦状耳飾は4遺跡で5点みられる程度と減少する一方で、前段階には認められなかった大珠が6遺跡で12点確認でき、この時期に突出する様相を呈する。また、それに伴って使用石材もヒスイの割合が高くなる傾向が看取された。骨角歯貝製装身具は、この時期に比較的多く、上山田貝塚では貝輪の他、単孔のマガキ製垂飾やカワウソの下顎骨を用いた垂飾が確認されており、製作や使用素材の特徴から北海道～西日本地域との関連性が指摘されている。

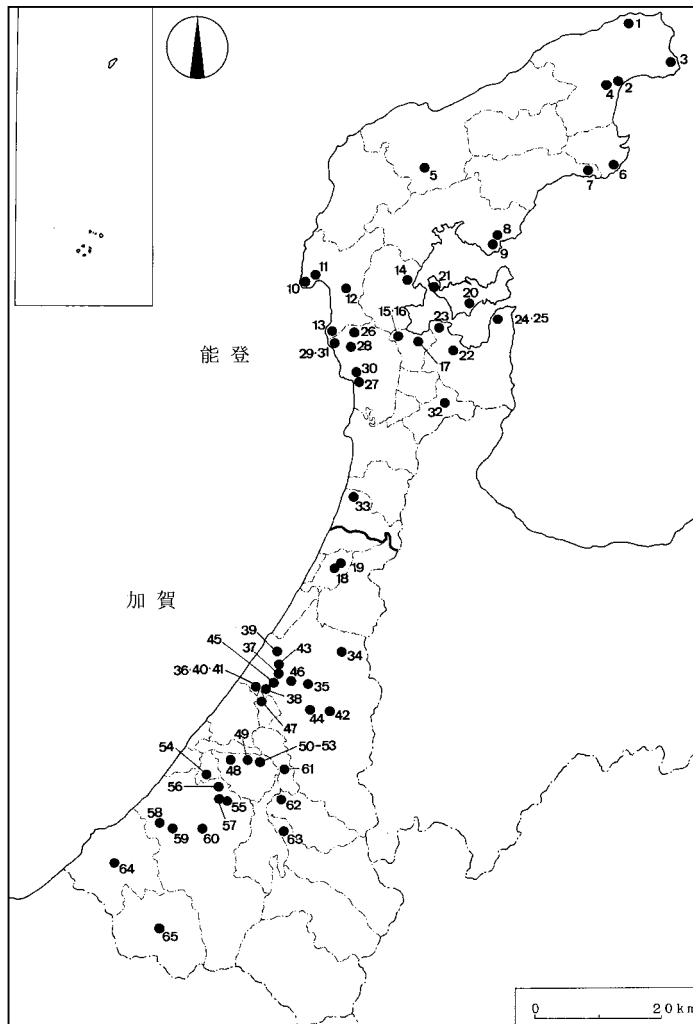
**後・晩期：**遺跡数は能登6遺跡に対し、加賀12遺跡と加賀での組成率が高くなる。特に金沢市・野々市町周辺において集中する傾向がみてとれる。石製装身具における組成の中心は、ヒスイないし含硬玉珪質岩製の比較的小型な丸玉等へ移行してくる。土製装身具は後期になると多様化し、加賀での出土数が多い。早期末～前期初頭には三引遺跡における結歯式櫛、中期には真脇遺跡における胸ないし腰飾りと単発的な出土傾向をみせていた漆塗装身具は、後・晩期に至り新保本町チカモリ遺跡や米泉遺跡などで櫛を中心に釧・管玉が組成するなど盛んな使用・製作がみられるようになる。

### 3. 三引遺跡における石製装身具の製作技法

玦状耳飾や円盤状石製品について、出土したの未成品から「平面分割技法」ないし「立方体分割技法」により施溝分割した後、粗磨き、抉り技法による内側円孔部の作製、スリットの切り込み、仕上げ磨き、という製作過程の復元がなされている。また、スリットの切り込み方法については、スリット部に残された円弧状の平行擦痕から糸切技法による切り込みが想定されており、早期末から前期初頭の時期に、すでに石鋸技法と糸切技法の両者が併存していたことが指摘されている。

### 4. 漆製品の製作技法

三引遺跡出土の結歯式櫛を初源として、後・晩期に至り盛行する漆塗装身具は、近年の科学分析により、前・中期にはベンガラを赤色顔料に用いていたものが、後期には朱が使われ始めるようになり、またベンガラとの使い分けがなされ、多層塗による品質差が生じるようになることや米泉遺跡出土の釧ではクロメ漆の使用が想定されるなど、漆製品の多様な塗装工程が解明されてきた。



遺跡名	所在地
1 折戸遺跡	珠州市
2 北方池の下遺跡	珠州市
3 高波ふるや遺跡	珠州市
4 山岸遺跡	珠州市
5 三井新保遺跡	輪島市
6 新保遺跡	内浦町
7 真脇遺跡	能都町
8 甲小寺遺跡	穴水町
9 甲どうのき	穴水町
10 久喜遺跡	富来町
11 酒見サンノハザマ遺跡	富来町
12 東小室キンダ遺跡	富来町
13 福浦港ヘラソ遺跡	富来町
14 小牧大杉谷内遺跡	中島町
15 大津遺跡	田鶴浜町
16 大津くろだの森遺跡	田鶴浜町
17 三引遺跡	田鶴浜町
18 上山田貝塚	宇ノ氣町
19 気屋遺跡	宇ノ氣町
20 佐波遺跡	能登島町
21 通シノハナ遺跡	能登島町
22 赤浦遺跡	七尾市
23 東町十場遺跡	七尾市
24 三室オオタン遺跡	七尾市
25 三室トクサ遺跡	七尾市
26 大釜おシヤ谷A遺跡	志賀町
27 川尻なべんたか遺跡	志賀町
28 五里峠シノガワ遺跡	志賀町
29 ナカノの池遺跡	志賀町
30 堀松貝塚	志賀町
31 又谷池遺跡	志賀町
32 徳丸遺跡	鹿西町
33 宿向山遺跡	押水町
34 小野遺跡	金沢市
35 笠舞A遺跡	金沢市
36 上安原遺跡	金沢市
37 北塚遺跡	金沢市
38 新保本町チカモリ遺跡	金沢市
39 近岡遺跡	金沢市
40 中屋遺跡	金沢市
41 中屋サワ遺跡	金沢市
42 東市瀬遺跡	金沢市
43 藤江C遺跡	金沢市
44 三小生ハバ遺跡	金沢市
45 南塚遺跡	金沢市
46 米泉遺跡	金沢市
47 御経塚遺跡	野々市町
48 跡生遺跡	辰口町
49 岩内遺跡	辰口町
50 灯台笹裏野A遺跡	辰口町
51 宮竹あつ坂遺跡	辰口町
52 宮竹うっしょやまA遺跡	辰口町
53 宮竹庄が屋敷C遺跡	辰口町
54 牛島ウハシ遺跡	寺井町
55 赤穂谷口遺跡	小松市
56 八里向山A遺跡	小松市
57 軽海西芳寺遺跡	小松市
58 念仏林遺跡	小松市
59 矢崎宮の下遺跡	小松市
60 六橋遺跡	小松市
61 白山遺跡	鶴来町・河内村
62 福岡遺跡	河内村
63 吉野ノミタニ遺跡	吉野谷村
64 藤ノ木遺跡	加賀市
65 小杉遺跡	山中町

第1図 石川県縄文時代装身具出土遺跡地図 (S=1/200,000)

(なお、遺跡所在地についてはおおよその位置関係が捉えやすいよう、市町村合併以前の行政区画に基づいて論をすすめたことをご了承願いたい。)

[草・前期]

アブライド	滑石	滑石質	滑石石墨片岩	含石英細脈粘板岩	頁岩質粘板岩	石灰岩質粘板岩	粘板岩	輝石安山岩	凝灰岩
1	4	1	2	1	2	3	16	1	3
珪岩	珪質岩	結晶石灰岩	石灰岩	粘板岩質石灰岩	含緑泥石不純石灰岩	不純石灰岩	黒曜石	コハク	蛇紋岩
1	1	2	7	6	1	23	2	1	2
真珠岩?	真珠岩?軟玉?	石英	石英質流紋岩	チャート・珪質岩	ヒスイ	メノウ質	流紋岩	流紋岩?軟玉?	軟玉?
1	2	3	2	1	5	1	15	2	1
ロウ石	ロウ石質	緑泥岩	不明	計					
4	6	2	11	136					

[中 期]

滑石	凝灰岩	玉髓	珪質岩	頁岩	蛇紋岩	石英質	石灰岩?	チャート	長石
3	6	1	1	2	3	1	1	1	1
泥岩	ヒスイ	ヒスイ質	メノウ	流紋岩	流紋岩質	ロウ石	ロウ石?	不明	計
1	17	1	1	4	1	4	1	6	56

[後 期]

滑石	凝灰岩	頁岩	頁岩?	頁岩質	細粒砂岩	砂岩?	中生代砂岩	珪質岩	含硬玉珪質岩
2	3	3	1	2	1	1	1	5	6
ヒスイ	ヒスイ質	メノウ	流紋岩	流紋岩質	蛇紋岩	石灰岩質	チャート	輝緑凝灰岩	粘板岩
13	7	1	1	1	4	1	1	1	1
緑泥岩質	ロウ石質	不明	計						
1	5	28	90						

[晩 期]

凝灰岩	蛇紋岩	石灰質粘板岩	石灰質岩	含硬玉珪質岩	ヒスイ	ヒスイ質	ロウ石?	ロウ石質	計
2	2	1	1	7	12	5	1	1	32

[時期不明]

滑石	凝灰岩	蛇紋岩	蛇紋岩?	ヒスイ	流紋岩	不明	計
1	2	1	1	1	1	7	14

第1表 時期別石材組成表

[illegible]

